

# 横濱港震害復舊工事に就て

内務省横濱土木出張所長

工學博士 安 藝 杏 一

## 工事施工の一般計劃

大正十二年九月一日の關東大震災が、吾横濱港に及ぼせる被害の程度は、實に國の内外を通じ未聞のこゝに屬す。明治二十二年以來千四百萬圓の工費を投じ、之が完成に三十餘年を費したる港内諸設備は、一朝にして殆ど全部破壊せられ、港灣の能力一時に滅絶し、其慘憺たる情況今尙眼前に彷彿たり。

然れども横濱港は帝都の關門にして、之が興廢は實に國運の消長に關する所頗る大なり。此に於て政府は震災後直に應急假設工事を施設して水陸聯絡の便を圖り、同時に防波堤、岸壁、護岸、橋梁等に於る被害の狀況を調査し、之が復舊の計畫を立て、大正十二年十月二十一日を以て復舊工事の施行を開始し、内務省横濱土木出張所をして其任に當らしむるに至れり。

横濱港復舊工事施行の第一要件は工事進捗の急速なるにあり。急速なる進捗と同時に其構造の強固にして、可及的耐震的ならしむるにあり。是れ技術者の最も苦心する所のものなり。本港の震害荒廢が吾邦の海外貿易に重大なる影響を及ぼすのみならず、京濱兩都市の復興に顯著なる關係を有するこゝ等を考慮する時は、港の復舊の一日も早からんこゝの必要を痛切に感ぜざるものなかるべし。又斯る慘禍の再現せざらんこゝを望まざるものも勿るべし。工事を完全にし且つ急速に進捗せしむるには左の諸件を必要とす。

一、築設物の構造を強固にし成るべく耐震的ならしむるこゝ。

二、成るべく工事の種類と分量とを減じ、工法は、設備に長時日を要するものを避け、總て敏速を旨とするこゝ。

三、必要なる船舶諸機械及び熟練せる従業者を急速に招集するこゝ。

四、工事材料及勞力の供給に遺憾なからしむるこゝ。

五、直營工事と請負工事を適當に按配するこゝ。

當土木出張所に於て施行する横濱港復舊工事は大藏省に於て施行する陸上設備の復舊工事を除外せるものにして、其豫算九百貳拾五萬五千五百四拾六圓なり。之を年度別に示す時は、十二年度は責任支出貳百五拾萬圓、追加責任支出參拾貳萬六千七百七拾壹圓、合計貳百八拾貳萬六千七百七拾壹圓。十三年度は責任支出百九拾五萬圓（十三年七月迄の分）、年度割豫算（同八月以降）二百七拾五萬圓。合計四百七拾萬圓。十四年度は百七拾貳萬八千七百七拾五圓なり。尤も十三年度以降は本港修築工事所謂第三期擴張工事豫算を併合す。今内譯を述べれば左の如し。

俸給及事務費	四〇六、七七一圓
岸壁護岸費	四、六三一、九三〇
防波堤費	五三八、四七〇
棧橋費	一、六六〇、〇〇〇
橋梁費	二五〇、〇〇〇
掃海費	一二七、〇〇〇
船舶機械費	九三八、〇〇〇
營繕費	二七五、〇〇〇
雜費	四二八、三七五
計	九、二五五、五四六